

## 東京湾再生官民連携フォーラム 平成 30 年度 第 2 回企画運営委員会

1. 開催日時 平成 30 年 7 月 31 日 (火) 16:00~18:00
2. 開催場所 スタндарт会議室 虎ノ門 SQUARE 店  
住所: 東京都港区虎ノ門 1-15-10 名和ビル 4 階

### 3. 議事次第

#### 《審議事項》

- (1) 東京湾での海水浴復活方策の検討 PT 政策提案について
- (2) 東京湾再生官民連携フォーラム平成 30 年度通常総会次第(案)について

#### 《報告事項》

- (1) 平成 30 年度 PT 活動報告
- (2) 平成 30 年度 PT 長会議について
- (3) 平成 30 年度施設見学会について
- (4) CSR—NPO 未来交流会 2018 開催報告
- (5) 東京湾再生アンバサダーの任命証授与報告
- (6) その他

### 4. 出席者 (敬称略)

來生委員長、佐々木委員、中村委員、井上委員、岡田委員、木賊委員、斉藤委員、工藤委員、田久保委員、竹口委員、芝原委員、三枝代理、天野委員、成川代理、山本委員、富樫代理、佐藤代理、市原代理、羽田委員、稲津代理、加藤代理、岩田代理、佐久間代理、小山代理、夏目委員、細川(事務局) 26 名出席

### 5. 議事メモ

#### 5-1 開会

##### (1) 事務局確認事項

出席委員の確認、配布資料の確認

##### (2) 開会挨拶 (委員長)

今日の審議事項は、「東京湾での海水浴復活方策の検討 PT からの政策提案(案)」がまとまったので、総会への承認に向けて議論をお願いする。政策提案(案)の最後の詰めをお願いする。他は、通常総会の議事次第(案)についてである。

#### 5-2 議事

##### 《審議事項》

## (1) 東京湾での海水浴復活方策の検討 PT 政策提案について

### 【決定事項】

東京湾での海水浴復活方策の検討 PT 政策提案については、本会議での指摘事項を踏まえ事務局に修正を一任し、修正案を総会に提出することで承認された。

### 【審議説明】事務局

資料 1-1、1-2、1-3 を用いて説明

資料 1-3 は政策提案の検討経過、今後のスケジュールを示した。平成 30 年第 1 回本委員会で政策提案(案)を披見した。以降自治体へは関係部局への意見照会のお願いと、フォーラム会員へも意見照会を行った。頂いたご意見を基に再度 PT・事務局が修正を行い、本日の提案資料に至っている。この案文、資料 1-2 では、右上に 2018.7.17 と表記しその時点を示している。

資料の 1-1 は、2 月 13 日(案)に対するご意見と対応(青字)と 6 月 10 日(案)に対するご意見と対応(黒字)として、全体が見えるようにした。

この対応表の説明をする。案のタイトルの変更の指摘。「東京湾奥」の指摘。「東京湾岸」という箇所を「流域」と表記変更。「湾奥」は、東京湾アクアラインの「陸側」としたが、「北側」へ変更。「過剰な安全意識」に対する指摘は事実経過を踏まえた文章に変更。水質基準について海水浴利用者へ水質の情報提供。と変更している。候補地の例示も地域の事情を勘案して削除した。「中長期」については新たに章立てをし、提案と展望を分けることにより明確にした。「ふん便性大腸菌群数」の扱いに関しては、衛生指標が変わるという動きがあることから、「例えば衛生指標(ふん便性大腸菌群数)」と表記し、科学的、合理的な判断ができる主旨で文章を変更している。下水道の表記も「合流式下水道の改善事業」と表記を明確にした。この他ご指摘を受けて提案の記述に変更または一部の修正をおこなった。これを踏まえて、資料 1-2 がその修正した記述となる。

### 資料 1-2 説明

本日は、最終的な案文である。1. では、この政策提案は、「快適に水遊びができ・・・」という「東京湾再生のための行動計画(第二期)」の全体目標と強く関連するものである。と宣言をしている。

2. では海水浴復活の意義と効果を述べており、①親しみやすく美しい「海」としての意義と②海水浴復活に向けて取り組みを推進する効果について、それぞれ噛み砕いて説明をしている。

3. では東京湾奥での海水浴の現状を述べており、千葉市の「いなげの浜」で海水浴場が開設され、東京都葛西海浜公園、お台場海浜公園で海水浴体験が行われている。また、葛西海浜公園で海水浴体験が行われているに至った経緯について、PT の母体となっている団体が努力した経験を整理して記述している。

経緯としては、最初は 2 日間の海水浴体験であったが、期間限定で年々体験日数を伸ばしてきた。また、一緒にその安全性など調べ、少しずつ規模を拡大してきた。さらに東京都の長期ビジョンにも記載していただいた。遊泳禁止の理由を聞き取り、心配事を地元の人や自治体とで解決してきた。不都合があればすぐに修正ができるようにフレキシブルな対応を行ってきた。さらに地元や自治体の賛同や支援を受けやすいように成果を説明するなど努力をしてきたと記述している。

こういった経過を踏まえて 4. で当面の第一歩としての政策提案をしている。条件を付け期間限定でまずやってみる。やりたい自治体があれば、東京湾再生官民連携フォーラムは応援する。取り組みやすい勉

強会から始めることや、中長期的な方策も提案している。水質の心配については、合理的な判断ができる技術開発の検討を記載し、水質を良くするには、合流式下水道でのオーバーフローの改善や海の生きものを利用した水質浄化が大事と記載している。

本日の審議は資料の 1-2 が対象となる。

**【審議経過】質問、提案など**

(岡田委員)

確認したいが、p4 の 4. (1)①～④について。①については「候補地の自治体」に対する提案と理解するが②～④はどうか？

(事務局)

候補地以外で行うことができれば行ってほしいが、この記述の順番で行けば、「候補地の自治体」となる。

(三枝代理)

体裁について、バラバラなのでそろえたほうが良い。

(事務局)

ご指摘の通りで、章、節、項などそろえる。

(佐々木委員)

1P の 2.①の見出しで、湾岸と記載されているが、流域と記載したほうが良いのでは。

3P ①②が体言止めで、③は文書となっているので表現をそれたほうが良い。

(事務局)

2.①見出しは流域に修正する。3P③は体言止めにそろえて修正する。

(天野委員)

6P、「例えば、・・・」で始まる前で改行されているが、文書は繋がっているのではないかと。

6P①で合流式下水道の改善事業が二度出てくるので、くどい印象を受ける。

前段が大事なので、後段は関係者の連携が重要となっている、二つ目を割愛することですっきりする。

(事務局)

ご指摘の通り修正する

(事務局)

指摘いただいた点を修正し、総会提出バージョンとして修正し、委員の方には再度ご報告をする。

**(2) 東京湾再生官民連携フォーラム平成 30 年度通常総会次第(案)について**

**【決定事項】**

平成 30 年度通常総会次第(案)は承認された。

**【審議説明】(事務局)**

## 資料 2 説明

フォーラムルールにより総会議長の選出と議題について総会の場で承認をいただくことになっている。  
取り上げる報告議題と審議事項について議題(案)としてまとめた。  
なお、審議議題は印刷資料で配布するが、報告議題はプロジェクターでの投影説明となる。

## 【審議経過】

(來生委員長)

総会の前にはもう一度企画運営委員会の会議はあるが、報告議題、審議議題について、ご意見を願います。特にないようなので、承認とする。

総会当日は、來生フォーラム議長／企画運営委員長が都合により不在につき、中村委員に総会での代理をお願いする。

## 《報告事項》

### (1)平成 30 年度PT活動報告

#### ①東京湾大感謝祭PT

【報告】(田久保委員(木村PT長代理))

資料3-1を用いて説明

毎月1回実行委員会を開催し、担当を決め、進捗報告を行い課題について検討しながら着々と進んできている。現在の出展申し込み状況は78社・団体である。最後のページ、例えば、協賛一覧であるが、ピンク部分が既に、申し込みをいただいた出展者である。

大枠の金額で表現すると、昨年と比べ、全体5とすると3程度となっている。皆さんの申し込みご協力を是非願います。

各PTの出展活動は、江戸前PTは、広場ゾーンの出展、ステージ発表、指標活用PTは、一斉調査のステージ発表を行う予定となっている。

また、環境省クールチョイスの活動の一環で、東京湾再生活動の感謝祭の事例を映像にして、自治体に配布予定となっている。下水道局では、昨年同様パビリオンで実施。(今年は10社の参加予定、自治体8)

企画運営委員会ご出席者のみなさまに重ねてご協力をお願いする。

#### ②東京湾環境モニタリング推進 PT

【報告】(事務局代理)

資料3-2-1、資料3-2-2を用いて説明

資料 3-2-1 は、PT 活動の説明で、PT 会合は適宜メールベースでおこなってきた。東京湾環境一斉調査が 8 月 1 日からいよいよ開始する。一斉調査に PT も参加する。また、調査の報告としてワークショップの開催および環境マップ作製を行う。

資料3-2-2は東京湾再生推進会議のモニタリング分科会の報道発表資料。水質調査、生物調査、環境啓発イベントと一連の大きな枠組みを説明している。参考箇所、フォーラムの活動概要も記載、別紙1に

調査の参加機関一覧を示している。フォーラム名も記載している。別紙2は生物調査の参加機関で、江戸前ハゼ棲み処調査をモニタリングPTが実施し、江戸前アサリ「わくわく」調査も協力して実施、環境啓発イベントでは、東京湾大感謝祭が一連の行事として記載されている。

### ③生きもの生息場づくりPT

【報告】(佐々木PT長)

資料3-3を用いて説明

平成30年6月28日～29日に第2期第4回PT幹事会を開催し、千葉県水産総合研究センター東京湾漁業研究所の施設見学を行い、富津岬におけるアマモ場の現地見学を行った。

28日の幹事会においてはまず、政策提案「マコガレイ産卵場の底質改善」のフォローアップを目的とした具体的課題について議論を行った。次に新たな政策提案に向けたアイデア出しと課題等に関する協議を行った。新たな政策提案について難しいと感じる点は、千葉側では民有の護岸が多いので、どんな展開ができるのかが大きな悩みとなっている。

同研究所の施設見学では、ハマグリ種の種苗生産に向けた取組等を見学した。翌29日の富津岬におけるアマモ場の現地見学は、皆で広大なアマモ場を確認し大変有意義であった。

### ④指標活用PT

【報告】(岡田PT長)

資料3-4を用いて説明

今年度も市民団体等の活動データの収集を実施する。下線部分が皆様にお願ひしたい箇所。「海ゴミの量」では、昨年の回答数が少なかったため、今年はフォローアップを実施する。8月にフォーラムメンバーへのアンケート調査を実施する。

「水遊び空間における水難事故防止のための監視・パトロール活動回数」は、同様にフォローアップを実施する。

「水遊びイベント・環境学習イベント等の参加者数」は、東京湾窓PTへの協力を願ひする。詳細に関しては個別に相談を願ひする。

「藻場の箇所数」は、漁業組合に聞き取り調査、アマモ活動団体に聞き取り、「江戸前の地魚・魚介類の販売箇所数・イベント数」は、漁業組合への聞き取り調査、そして江戸前PTに協力を願ひする。

東京湾の環境に対して取組を行っている企業・団体数の数に関しては、経団連自然協議会に検討の願ひの相談をしている。

皆様のご協力を感謝する。

### ⑤パブリックアクセスPT

【報告】(竹口PT長)

資料3-5を用いて説明

既に、第一次政策提案を行っているが、その際、工場敷地や臨海部マンション用地の利用あるいは海からの利用ができないか等、積み残した課題について検討している。

海への視点場に関しては、相当程度確保されている前提で議論して沿岸部立地企業、産業関係行政機関、港湾管理者の一部からPTの研究内容に関連して意見を聴取した。またマンション敷地の利用をめぐる現状等について、住宅系公的団体から考え方を聴取した。

これを踏まえて、PT ではできるだけ早期に最終報告として結論を出そうとしている。

## ⑥東京湾の窓PT

### 【報告】芝原PT長

資料 3-6 を用いて説明

7月3日に会合を開き、またメールにより打ち合わせを実施してきた。

「東京湾ぐるっとスタンプラリー」の準備に向けて検討して、今年は主催が東京湾の窓プロジェクトチームで実施する。昨年6施設の参加から今年は12の施設参加となり、光写真印刷(株)の協力により3万部のシートを印刷することができた。また、参加賞品を各施設から提供頂いた他、日本国際湿地連合、マルハニチロ(株)などからも協力を得ることができた。

## ⑦江戸前ブランド育成PT

### 【報告】(富樫代理)

資料なし。6月27日にメンバーを再募集して会合を実施した。7月30日に東京湾大感謝祭に向けて、水産関係団体が集まり会議を実施し。昨年並みの出展予定。当面、東京湾大感謝祭で情報発信していく。

## (2) 平成 30 年度 P T 長会議について

### 【報告】(事務局)

資料4、資料4別紙を用いて説明

PT会議は、皆様のご都合を勘案して8月29日(水)16:00~17:30で開催する。場所はみなと総合研究財団の会議室で行う予定。

議題は①PT活動の情報交換と経験交流、②他のPTとの連携の2つで別紙を参照。自分以外のPTとで、それぞれこんな連携や交流をしたい、またはお願いをしたいなどのアイデアを出していただき、マトリクスに整理し連携の促進を図りたい。PT長が不都合の場合は、ご推薦の代理人の出席をお願いする。

## (3) 平成 30 年度施設見学会について

### 【報告】(事務局)

資料5を用いて説明

東京港を船で見て、東京港について話を聞くという会である。新東京丸の都合もあり、8月24日(金)13:00~16:45に施設見学を実施する。東京都の方にレクチャーをお願いしている。資料5の裏ページに海上見学コースを記載している。

## (4) CSR—NPO未来交流会 2018 開催報告

CSR—NPO未来交流会を実施した。社会イノベーションの講演を聞いて、グループディスカッションをおこなった。講演は企業3団体で、その後情報交流を実施した。日立製作所の場合は自社の製品開発も兼ねて、里山の再生を行っている市民団体と連携している。パナソニックは、プロボノをテーマに、社員のスキルをNPOに当てはめ、応援するなど、社員の得意分野を市民活動にいかした事例となる。教育と探

求社は、社員教育にも使えるなどの講演を行った。マッチングの進みは、事務局も今後見ていかなければならないし、交流を図っていく。

(5) 東京湾再生アンバサダーの任命証授与報告

【報告】(事務局)

ガリガリ君に任命証を渡し、名刺もお渡した、來生議長においでいただき手交を行った。

(6) その他

(芝原PT長)

スタンプラリー実施の広報がまだ不十分なので、配布資料を活用するなど、みなさまにご協力をおねがいしたい。直接、芝原にお声掛けをお願いします。

5-3 閉会

委員長が閉会を宣言

以上